

第1回 (仮称) 第1給食センター整備計画検討委員会 議事録

1 開催概況

日 時：平成22年10月26日(金) 13:30～15:30

場 所：学校給食センター(那の津) 給食会館会議室

出席委員：竹下輝和委員長，多比良啓子副委員長

藤本一壽委員，大部正代委員，太田順子委員，神美代子委員，

吉浦義友委員，梅林秀巳委員，西山眞弓委員 (以上9名)

欠席委員：小田隆弘委員，大石桂一委員，飯田光夫委員 (以上3名)

教育委員会事務局：8名

※傍聴人：3名(議題2以降)

2 議事録(要旨)

(1) 議題1：委員長，副委員長の選任等について

ア 委員長，副委員長の選任については，委員からの推薦を踏まえて，竹下輝和委員が委員長に，多比良啓子委員が副委員長に互選された。

イ 本委員会設置要綱第9条に規定する実施の細目については，事務局から教育委員会提示案を本資料により説明し，次のとおり決定された事項を除いて案のとおり承認された。

(ア) 傍聴の手続きについては，福岡市教育委員会傍聴人規則に準じることとされた。
なお，傍聴人受付については個人情報保護の観点から番号票制度により，無記名で行う。

(イ) 議事録への委員名の表出については，表出しない。

(ウ) 議事録署名人については，委員長，副委員長及び委員1名の3名とする。また，今回は委員署名を吉浦委員にお願いし，次回以降，順番に回していく。

(2) 議題2：平成22年度検討内容フローについて

ア 本資料に基づいて事務局から説明があった。

なお，12月議会に事業用地と事業手法について表明していきたい旨，併せて報告があった。

イ 説明に対して特段の意見等は出されなかった。

(3) 議題3：(仮称) 第1給食センター整備計画策定にあたっての視点について

協議内容が多岐にわたることが予想されることから，各項目毎に事務局から説明

を行い、審議を行うこととした。

① 「施設の基本的あり方」について

ア 資料に基づいて事務局から説明があった。

イ 説明に対して次の意見等が出された。

(委員) 「福岡にふさわしい整備方針」について、「ふさわしい」が漠然とした表現であり、改められないか。

(事務局) 地理的・歴史的なもののセンター仕様への反映や、市の財政状況を考慮した簡素で効率的な施設としての意図を含めたものだが、表現については考えたい。

② 「安全・安心な給食のための衛生水準、危機管理の徹底」について

ア 資料に基づいて事務局から説明があった。

イ 説明に対して次の意見等が出された。

(委員) 「廃油活用」とあるが、廃油はセンター熱源のどのくらいか。

(事務局) 現在のセンター熱源は、基本的にボイラーであるが、昨年から廃油リサイクルボイラーを稼働している那の津においては、廃油の混合率が重油比で10～20%程度である。

(委員) 熱源も、オール電化もあるし、経費もかかる話である。ある程度一本化の想定になるのかなとも思うが、事故時の代替熱源確保等、危機管理について考える必要がある。

(事務局) ご意見のとおり、危機管理を考慮する。

(委員) 低炭素社会づくりも踏まえ、詳細に設計する段階で考慮して欲しい。

(事務局) ご意見のとおり、考慮する。

③ 「環境負荷の低減」について

ア 資料に基づいて事務局から説明があった。

イ 説明に対して次の意見等が出された。

(委員) 食材のリサイクルに踏み込んで、例えば豆腐工場で発生するおからの有効活用の仕組みはあっても民間では使い手がなく、上手くいかない現状である。これらを給食センターで積極的に取り組む枠組みができないか。将来的にも検討していただきたい。

(事務局) リサイクルとしては、現センターでは調理くずや食べ残し（おかず、米飯、パン）を主に飼料用として業者が回収している状況であるが、リサイクル・ループ（食品循環）というところまでは、価格面や供給量等の面から至らない現状である。また、場内でのコンポストの設置等については臭気等の問題もあり、困難と考える。

しかし、食品循環は将来的な課題と捉えておきたい。

(委員) 新エネルギーの利用としては、太陽光、風力やバイオマス等がある。バイオマスについては積極的に検討してみても良いと思う。風力は低周波等の問題もあり、現実にはどうかと思う。

(事務局) ご意見を踏まえて検討してみたい。

(委員) 残滓量はどのくらいか。

(事務局) 小学校で大体2%、中学校は10%超くらい。なお、重量ベースでは、1学期分でパン15トン、残滓(調理くずを含む)で184トン、米飯は小学校・特別支援学校含めて143トン。但し、生徒・児童のスプーン一杯の食べ残しがセンター38,000食分で0.5トン/日程度であることを考慮して欲しい。中学校が多い理由には喫食時間の問題もあるが、献立の更なる工夫も含めて残滓減に取り組んでいきたい。

④ 「より豊かでおいしい給食のための調理環境の充実」について

ア 資料に基づいて事務局から説明があった。

イ 説明に対して次の意見等が出された。

(委員) 特別支援学校については、肢体不自由特別支援学校、知的障がい特別支援学校共に、小学部、中学部及び高等部で統一の献立で量を調整しているが、小学校と特別支援学校の献立はどう違うか。

(事務局) 辛みが違うのと、多少咀嚼や嚥下しやすい工夫を全児童生徒一律に対応している。また、物資が中学校の規格なので、一個付けのものはサイズが大きくなる。今後は献立や物資規格について、改善していきたい。

(委員) 「独自献立のあり方」とあるが、知的障がい特別支援学校の子どもたちは、社会参加を積極的に行っていくことを目指すという位置づけにあると思う。したがって、できるだけ小学生や中学生と同じ環境で給食を摂って欲しいと思う。但し、例えばダウン症児の一部などは嚥下や舌の使い方が上手ではない傾向があり、考慮を必要とする。現在行っている魚の骨除去は非常に大事であり、また、加圧処理の方法も有効ではないかと考える。

(事務局) 現状では物資の調達が中学校と一体であり、魚の骨除去を行ったものが中学校でも使われている。先ほどの辛みの件も含め、献立を独自に行う、としたところである。

(委員) 刻み加工対応については、センターの衛生的な環境で対応することが必要。但し、どのような食事方法、加工段階に設定するかは慎重に行って欲しい。

(委員) 新しい施設では、副食数を3品にすることだが、現施設でも可能か。

(事務局) 現施設では不可能である。なお、3品に献立を増やすことで、不足しがちな栄養(鉄やカルシウムなど)を補いやすくすることにも有効だと考える。

(委員) 辛みについては、学校内に年齢の幅があり、上の年齢の子どもには先ほど

の社会参加の意味も踏まえて、もう少し辛みを加えた献立を出してもいいのではないか。また、咀嚼や嚥下も個人差がある。年齢に応じた食事やさらには個々に対応した食事を提供できるセンターを目標とすることも考えられる。

(委員) 知的障がい特別支援学校では、咀嚼と嚥下それぞれに個別に状態があるのか。それとも一致しているのか。

(委員) それぞれにある。それは障がいの度合いによるものもあれば、その場の環境で、噛まずに飲み込んでしまう場合もある。学校の先生は、そういう子を見ながら他の子も見ながら、刻む必要があれば小さく刻んで、状況を見て給食を進めているようである。

(委員) 誤嚥を起こす子は刻んだ食べ物は口の中でばらけて、かえって飲み込みにくくなる。だから、嚥下と咀嚼の問題は別に考える必要がある。刻み加工がここでは出ているが、刻みだけの問題ではないのではないか。

(事務局) 刻み加工の考え方については整理していきたい。

また、肢体不自由特別支援学校では、保護者と学校との協議により、状況の変化に応じて対応を変更していくということを行っている。センター調理においてもそのような体制の構築も含めて考えていきたい。

特別支援学校のPTAの方々との情報交換会を考えているので、その中でも意見を聴いていきたい。

どういうあり方が最適で何がどこまでできるか、整理していきたい。

⑤ 「アレルギー対応食が提供できる給食環境の整備」について

ア 資料に基づいて事務局から説明があった。

イ 説明に対して次の意見等が出された。

(委員) アレルギー実態調査は毎年行っているのか。

(事務局) 行っている。但し、食材毎に自己申告的に数字を積み上げただけなので、その症状の度合いやアレルゲンの重複までは読み取れない。

(委員) 全体的に改善の兆しがあるのか。

(事務局) 全体としてアレルゲン保有者は増えている。

(委員) 小麦の対象者はどのくらいか。

(事務局) 先ほどの実態調査からは、小麦でパン（ぶどうパン等含む）を一部でも食べられない人も含めて中学校及び特別支援学校全体で60名程度。

なお、乳で440名程度、卵で260名程度、その他の表示義務原材料は150名程度となっている。

(委員) 小麦を対象外とする理由は何か。

(事務局) 主な理由として、給食の米飯に麦が入っていることや、多くの食材に小麦が使われていること。示している案では、例えばえびにアレルゲンを持つ場合は、対応アレルゲン全種対応献立となる。その場合、小麦の影響で多くの献立に制限

がかかるため、この献立を選びにくくなるのではないかと、希望者がかなり少なくなるのではないかと考えて判断した。

(委員) ここは、先ほどのデータ等を具体的に示した方が分かりやすいと思う。

(事務局) ご意見を踏まえ、データ等を確認したい。

(委員) 社会的には年々対象者が増える傾向との説明だったが、時間軸で将来各アレルゲンの動向がどうなるか、それに設備が耐えうるかを踏まえた検討を行うべきだと思う。

(事務局) 各アレルゲン毎の今後の傾向を把握するのは非常に厳しい。

(委員) 施設として、10年、20年後の状況にも対応できる順応性があればいいのではないかと。

(委員) 手続きについては慎重に考えるべき。毎年行った方が良くはないかと。

(事務局) ご意見を踏まえ、考えていく。

⑥ 「食育に資する望ましい給食環境の整備」について

ア 資料に基づいて事務局から説明があった。

イ 説明に対して次の意見等が出された。

(委員) 食具での箸の件は、現行では家庭からの持参だが、それについての教育委員会・学校からの周知や、保護者としての認識が足りていないのだと思うので、しっかりと徹底を図ることで、今後も持参で良いのでは。

(委員) 徹底が難しいところもあるかと思う。対応に幅を持たせることができないか。

(事務局) 今はランチプレートなので、スプーンとフォークの組み合わせで良いと思うが、個別食器だと、スプーンやフォークでご飯は栄養士も違和感を感じている。しかしながら、小学校は個別食器で箸は持参としているので、こちらとの対応の違いも生じるため、悩ましいところである。

(委員) 「マイ箸」という考え方も広がっているので、持参継続も良いと思う。

(事務局) 献立を家庭で確認する良い機会にはなると思う。

(委員) 小学校はスプーンとフォークなのか。

(事務局) それらを準備しているが、「箸の日」を設定してフォークを提供しない日もある。

(委員) 義務教育を終えた子どもで、箸の持ち方が悪い子どもが非常に多い。基本は家庭にあると思う。弁当でも、スプーンやフォークを持ってくる若者が非常に多いが、箸を持ってくるべきだと思う。持ってこないのは、小学校給食の影響もあるのかも知れない。

(事務局) 事務局側としては、箸を多くの割合の生徒が持参する、というのは期待できないのではないかと考えた。また、フォークについては、持参は登下校中も含めて安全管理上の問題もあるという意見も伺ったので、提供する方向で考えた。

- 現行の方法や全てをこちらで準備する方法も含め、今一度事務局で整理したい。
- (委員) 小学校は体格の差が激しく、手の大きさが違い、一律の大きさの箸を出すのは問題がある。しかしながら、中学校になると成長が進んでおり、大きな問題は起きないかも知れない。
- (委員) 特別支援学校については、箸が難しい子どもが多いので、基本的に全種類出してもらうのが良いかなと思う。なお、訓練用の箸等は現行通りの家庭対応が良いと思う。
- (委員) 国の基準で県費負担の栄養士配置は6千食以上のセンターについては3名と決まっているが、食育推進上、福岡市としての望ましい栄養士の配置をどのように考えているのか。
- (事務局) 財政上も含めて非常に厳しいところがあるが、現在小学校栄養士は55名、およそ3校に1名、中学校は12名、およそ5校に1名となっているが、将来的に校区制等による枠組みのあり方等も考える必要性も感じている。

⑦ 「高品質かつ効率的な施設設備の整備及び運営」について

ア 資料に基づいて事務局から説明があった。

なお、「事業方式」については、次回、詳細な調査結果をご報告したい旨、併せて説明があった。

イ 説明に対して次の意見等が出された。

(委員) 配膳方法については、喫食時間の問題もあり、学級配膳盆の方式が良いのかは判断しにくい。また、給食時間を5分延長したが、残滓が減っていない学校もある。

(事務局) 給食は、保温性の高い食缶を使用することで、小学校・中学校とも、学級で蓋を開けるまでは同じ温度で提供できることが、先日調査して分かった。そこから配膳して「いただきます」をするまでの間で温度は急速に冷めていくので、温かい給食のためには配膳時間を短縮することが重要となる。また、配膳時間が長くなれば喫食時間にも影響があるので、そこを短縮させたい。

⑧ 「その他」について

ア 資料に基づいて事務局から説明があった。

イ 説明に対して次の意見等が出された。

(委員) 移行期間中、現センターでは、改修しても3品献立はできないのか。

(事務局) 機器設置スペース等の問題でできない。

(委員) 人員配置の問題もある。

(事務局) 今のスケジュールで4年間は移行期対応が起きることになる。

(委員) 生徒の意見の反映はとても良い企画だと思う。我々では気づかないところに気づくのではないかな。

(事務局) いろいろな方法の中から何らか検討したい。

(委員) 生徒会の集まりの場で行うことも考えられる。

(委員) 移行期間中の対応の違いの件は仕方が無いことだと思う。未来の子どもたちのためということで理解してもらえと思う。

生徒の意見の反映の件については、いろいろな子から聞いてみたらどうか。

(事務局) 移行期における旧センター方式校への巡回提供について、ご意見を聞かせていただきたい。

(委員) 巡回提供は面白いと思う。

(事務局) 配送の問題や学校受所の容量等の問題等もあるが、検討してみたい。

以上